



みにくい  
あひるの子

アンデルセン童話

イラスト しおざわ ともみ

なつです！

はたけやはらっぱは、

あかるいお日さまをいっぱいあびて、かがやいています。

あるいけのそばに、

ひっそりしずまりかえった草むらがあります。



アヒルのおかあさんが、  
もうなん日もたまごをあたたためつつけています。

(パキパキッ)

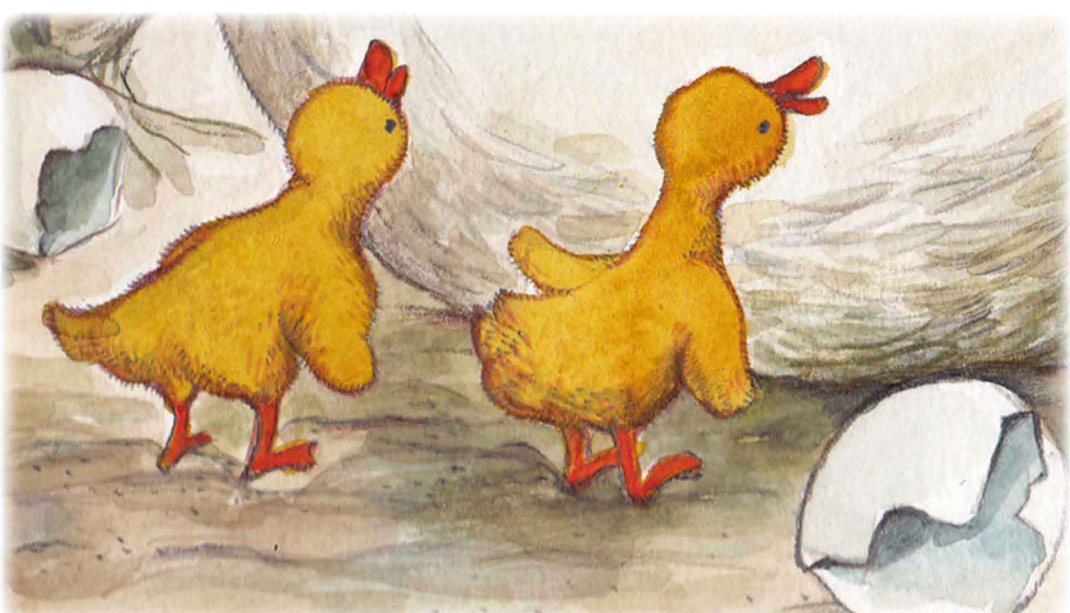
ひなたち「ピヨッ ピヨッ ピヨ〜ッ」

おかあさんのおなかの下から、

ひなたちがとび出してきました。

アヒルは「グワツ、なんてかわいい

子どもたちでしょう」

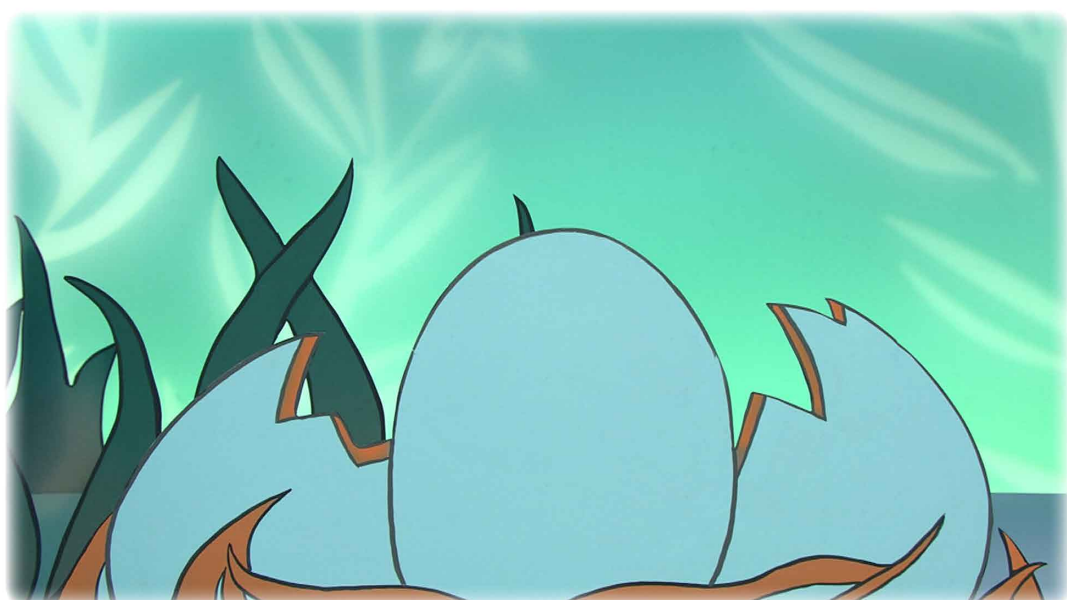




アヒルはは「あら、まだたまごがひとつのごってるわ。  
大きいこと。やれやれ」

アヒルのおかあさんは、またたまごをあたたためはじめ  
ました。

(バキバキバキッ)



みにくいアヒル「グワッ、グワッ、グワッ」

アヒルは「なんて大きくてみにくい子。

きたない、はいろいろのけだこと」





つぎの日、かあさんアヒルは、  
子どもたちをつれてあるき出しました。

ひなたち「ピヨッ ピヨッ ピヨッ」

みにくいアヒル「グワツグエグゲグエグゴ」

アヒルは「ごきんじょのみなさん、わたしの

子どもたちです」

そこはおばあさんアヒルや、にわとりや、

しちめんちようがいました。



おばあさんアヒル「きたないはいいろのーわをのぞけば、  
かわいい子どもたちじゃな」

しちめんちょう「なんとでかくて、ぶかつこうだこと。」

こんなアヒルみたことない」

にわたりのにいちちゃん「じゃまだ！どけ！めざわりな

やつめ！」

みにくいアヒル「うううっ…」

ついに、かあさんアヒルまでもがいい出しました。

アヒルは「はあ、くろうばばかりかける子だ。おまえが

いるばっかりでこんな目にあうなんて」





みにくいアヒルの子は、にげ出しました。

いけがきをとびこえ、草むらをぬけ、

はしって、はしって、大きなぬままでやってきました。

くたびれはてたアヒルは、そこで一ばんすごすことに  
しました。

目をさますと、ぬまにはのがもたちがいきました。





アヒルは、なかまに入れてもらおうと、  
できるだけいていねいにおじぎをしました。

みにくいアヒル「こんにちグワッ！ぼくは、アヒルの子  
です」

のがも「へんなアヒル。それにしてもひどい。

まあ、おれたちのなかまじゃないしかんけいがないがね。

はは」

そのとき！

（バンバーン！）

目のまえではなしていた、のがもたちが、  
とつぜんバツタリとたおれました。



てっぼうにうたれ、

ぬまの水がまつ赤にそまっています。

(ハアハア、ハアハア)

アヒルはおどろいてかおをあげました。

すると目のまえには、おそろしく大きな犬が

目をキラキラさせ、ハアハアとあらいいきをして、

たっているではありませんか。





ところが犬は、アヒルの子にはさわりもせず、  
いってしまいました。

みにくいアヒル「ぼくがみにくいから、犬までもが  
たべたがらないんだ」



みにくいアヒル」ぼく、なんにもわるいことして  
ないのに、どうしてきらわれてばかりなんだろう」

きせつは、あきにかわっていました。

うつくしくしむむ夕日をせにうけ、

大きくてまばゆいばかりに白いとりたちが、

いつせいにとび立ちます。





みにくいアヒル「ああ、あのうつくしい  
とりたち、ともだちになりたいなあ。  
でもぼくみたいにみにくいアヒルを、  
なかまにいれてくれることなん  
てきつとないだろう」





ふゆになりました。

ぬまの水はどんどんこおっていきます。

みにくいアヒル「おお、さむい、さむいよ。

ああ、もうだめだ」

つらくてさむいふゆがすぎていきます。





みにくいアヒル「はるだ、はるがきたんだ」



みにくいアヒル「わあ、なんて  
気もちがいいんだろう！  
なんだかどべそな気がしてきた」

みにくいアヒル「すごい。とべた。とべたぞ」

気がつくと、アヒルの子は空をとんでいました。

たかい空をとんでいるうちに

うつくしいにわがみえてきました。

いけにはまっ白な白鳥じやうくわたちがおよいでいます。

みにくいアヒル「ああ、あのうつくしい

とりたちのそばにいつてみたい。

またつつかれるかもしれないけど、

それでもいい」





みにくいアヒル「ほかのやつらにいじめられる

くらいなら、いっそあのとりたちにごろされよう」

アヒルの子はいをけっして、いけにおり立ちました。

するとどうでしょう。

白鳥はくちまじりのほうが、アヒルにちかづいてきたのです。



みにくいアヒル「ぼくはみにくいアヒルの子です。

どうぞそろしてくだいさい」

みにくいあひるの子は、とじた目をひらきました。

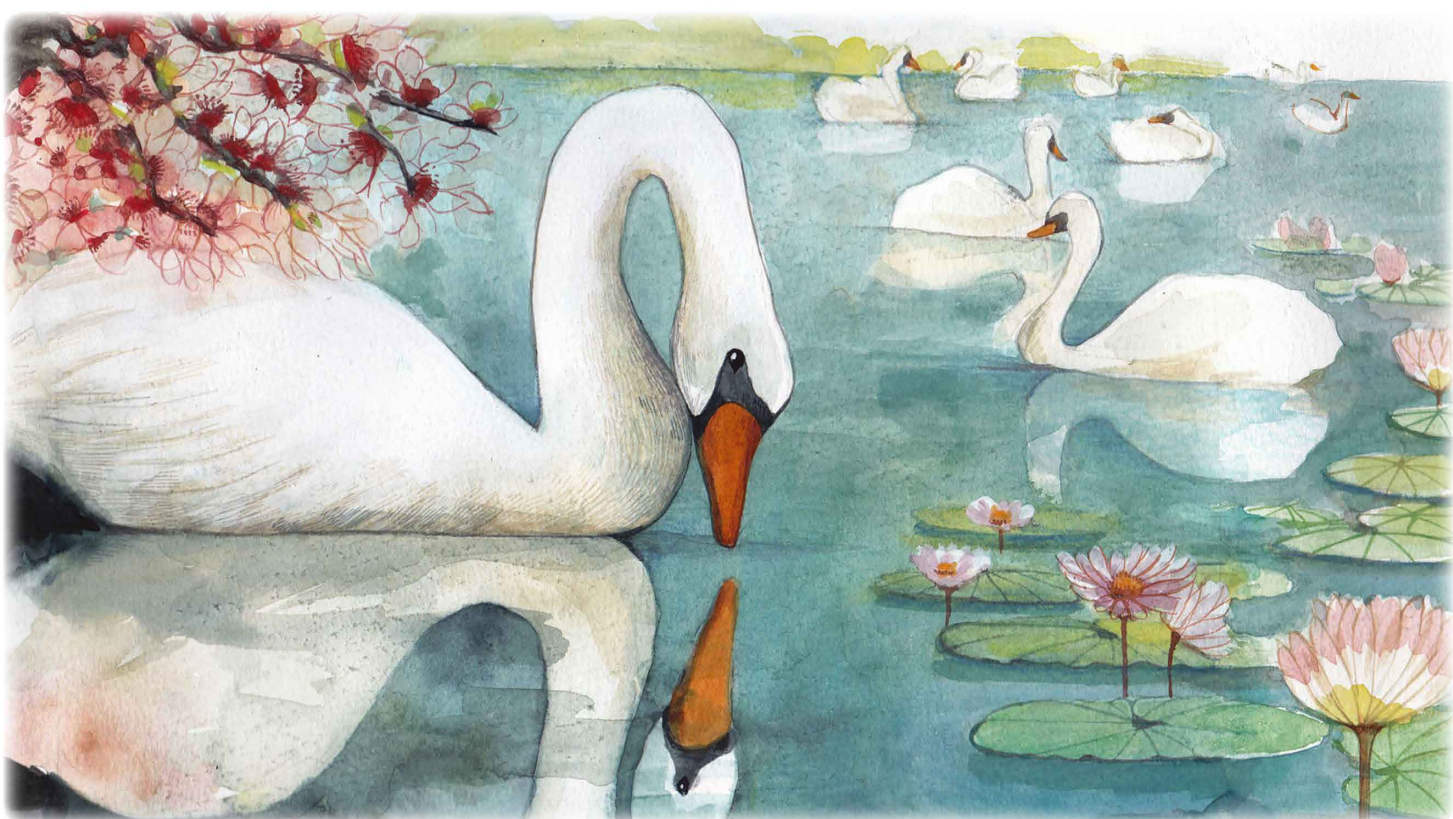
みにくいアヒル「えっ……。こ、これは、ぼくなの？」

すみきった水の上にうつつっていたのは、

みにくいアヒルの子ではありませんでした。

そう、「わのうつくしい

白鳥はくぢうのすがただったのです。





白鳥しらとりの子はうつくしいはねをひろげると  
なかまたちと青空へまい上がりました。



おしまい